

The Point

アクセントチュア広報誌 金融サービス版

頂点を極める

銀行向けクラウドコンピューティングの
競争・価格優位性

>
accenture

ハイパフォーマンスの実現へ

- コンサルティング
- テクノロジー
- アウトソーシング

手探りのクラウド

ビジネス系のメディアでは、「クラウド」コンピューティングについて多くの話題が取り上げられています。しかしながら銀行業界においては、クラウドとは何か、またそこにある可能性とリスクについてまだ十分に理解されていないようです。事実、銀行業界が様々な課題に直面する中で、クラウドに係る規制の問題や、データセキュリティ、ロケーション、責任負担、リカバリティなどについて懸念があるために、クラウドがもたらす短期的なインフラコストの削減効果のみならず、より重要となる中長期的、広範囲に及ぶ効果についても理解が遅れています。

定義上、クラウドコンピューティングがあればユーザーは場所を問わずにインターネットを介してコンピュータの機能を利用できます。銀行業界において、インフラやアプリケーション、ビジネスプロセスの面でコスト軽減や効率化の機会を得られることは認識されていますが、クラウドコンピューティングが、柔軟で機動的なビジネスモデルの構築、顧客との取引関係の提案、差別化を実現するための新市場の開拓・新サービスの創出といった点でどのような可能性を持つかについては、十分に理解されていないのが実情です。

クラウドコンピューティングから最大限の価値を生み出すために、既存のビジネスで実施しているような厳格な分析的手法が適用される必要があります。セキュリティなどの予想される問題の多くは、現在実施されているもので十分対応が可能です。銀行はこうしたクラウドに関する取り組みを通じて、価値創出とイノベーションを実現し、金融業界において競争優位を確保することが可能です。クラウドは、最も有望な手段であり、数年のうちにビジネスを成功させる上でなくてはならないものなのです。

金融サービステクノロジー

マネージング・ディレクター

ダニエル・ベントン

最近はどの経営陣もクラウドコンピューティングのことを口にします。しかし、「クラウド」とは一体何であり、なぜ銀行の経営陣の関心を惹きつけるのでしょうか。

アクセンチュアは、クラウドコンピューティングとはハードウェア、ソフトウェアおよび各種サービスなどのIT機能を、インターネットを介してダイナミックに提供するものと定義しています。クラウドサービスの主な利点として、巨額の投資が不要であること、従量課金制であり、迅速に利用開始が可能であること、運用コストが低いこと、プログラム追加が可能であることなどが挙げられます。

銀行にとって、クラウドの魅力は何でしょうか。最大の魅力の1つは、何と言っても短期間でコストを削減できることでしょう。例えば、アクセンチュアが自社のIT部門で試算したところ、自社のアプリケーションの大部分をインフラ・クラウドに移行することで、ホスティング費用を最大で年間50%削減できるという結果が出ています。また、中長期的にはインフラコストを削減する以上のメリットを得ることができます。これらのことから、クラウドは現在の銀行が優先課題に対応する上で最適な手段と言えるでしょう。クラウドの特徴は広範囲のリソースの中から必要なものを柔軟に利用することが出来ることであり、これにより、銀行は変化する環境にコスト効率よく対応することが可能です。

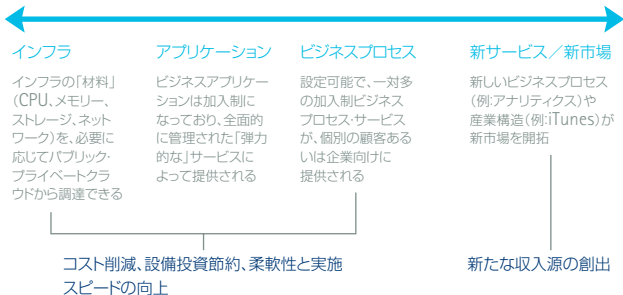
短期的にも長期的にも大きな導入効果が期待できるものの、自行のデータが文字通り「雲の中」に置かれることへの不安が、銀行経営陣が導入をためらう要因となっています。こうした懸念と、基幹アプリケーションがクラウドにないことを理由として、多くの場合、銀行はインフラ面での導入を中心とし、自行専用のプライベート・インフラ・クラウドを構築しています。しかし真の強みを発揮するのは、銀行が外部のクラウド利用に目を向け、インフラのみならずアプリケーションとプロセスについてもクラウドを取り入れたときです。

アクセンチュアは、最終的には殆どの銀行が、パブリック・クラウドの優位性と自行クラウドの安全性を組み合わせたアーキテクチャを採用すると見ています。そうすることによって、銀行はクラウドを設計するにあたり、パブリック・プライベート両クラウドを組み合わせ、管理してセキュリティを適切に確保できます。例えば、機密性が低くアクセス頻度の少ないデータは、シンプルなパスワードでアクセス管理し、パブリック・クラウド・インフラサービスを使って取り扱います。一方、機密性の高いものは、強力なアクセス認証機能を設定し、専用サーバーを超高セキュリティのデータセンターで管理することが考えられます。

クラウドコンピューティングとは何か。

クラウドコンピューティングがあればユーザーは場所を問わずにインターネットを介してコンピュータの機能を利用できます。

企業はインフラやアプリケーションの面で導入効果があることは理解していますが、クラウドコンピューティングの真価は、それによって新市場の開拓、新サービスの創出ができる点にあります。



出典: アクセンチュア

コスト面以外では、アクセンチュアは4つの領域に着目しています。この領域にクラウドコンピューティングを導入すれば、より顧客中心で、かつ機動的なビジネスモデルを構築することが出来、この結果、ビジネスの成長を実現する事ができると考えています。

柔軟で摩擦のないエコシステムの構築

銀行にとってクラウドコンピューティングを採用する最大の効用は、ビジネスプロセスを刷新できることでしょう。例えば、電子支払い処理企業であるTradeShift (Portaから社名変更)は、為替レートの条件が最も有利なときに「自動で支払いがなされる」ように設定できる動的な支払い処理サービスを提供しています。また、Twitpay、Zong、Squareといったベンチャー企業もクラウドを活用して料金の引き下げや資金移動の迅速化を目指しています。

他の例として、クラウドコンピューティングを活用すれば銀行は通信会社や郵便サービス会社などの事業体と組むことも可能です。即ち、従来取引関係がないためにアプローチが困難であった顧客と、クラウドを活用することで「顧客接点」を作り出すことが可能となります。こうして銀行は、クラウドにより新しい分野や地域で、迅速にしかも最小限のコストで新規事業の展開ができるようになるのです。

クラウドコンピューティングを利用した コンシューマー向けサービス

クラウドは、顧客が商品やサービスを選択、利用することを容易にします。例えば、スマートフォン向けアプリケーションを使って、食事をした客がそれぞれの支払いを即時に決済できるといったサービスが考えられます。

さらに即時性のあるものとしては、銀行がクラウドを活用することにより、日ごとに利用者・存在感が増しつつあるソーシャルメディアを通じて、顧客との結び付きを強めることができます。例としてアバターを挙げてみよう。アバターは、自動化でき、自在にも操れるキャラクターですが、これを使えば、銀行が時間、地域、および製品の専門知識の面でアプローチできる範囲が大いに広がります。さらに、クラウドが実現するコラボレーション・テクノロジーによって、複数の支店の専門家がグループで知識・経験を出し合い、顧客の問題を解決することができるようになります。

必要なときに使うアプリケーション

現在、多くの銀行でレガシーなIT資産に頭を悩ませています。アクセンチュアは近い将来に、多くの銀行のアプリケーションがクラウド移行の対象となると考えています。さらに標準的ソリューションが登場すれば、レガシーな資産の問題を解消することが可能であり、そこで社内および顧客向けの新たな業務アプリケーションは、クラウドが持つ柔軟性、迅速性を活かしたものとなるでしょう。

コラボレーション・テクノロジーによって、様々な顧客基盤へのアプローチが可能になるだけでなく、銀行はアプリケーション開発のためのプラットフォームを得ることができ、それによって開発コストを削減する事が可能です。クラウドプラットフォーム用に作られたアプリケーションを使って、銀行はブランド強化、商品・サービスの広告、顧客への情報提供とアプローチを行うことができます。

また、社員や取引先の技術革新や、プロセスの創意工夫を促進するための自行のプライベートなソーシャルネットワークを構築することも可能です。エンタープライズ・ソーシャルソフトウェアを利用して構築されたアプリケーションは既に活用可能です。ソフトウェア開発会社Atlassian（アトlassian）が提供するコラボレーション・ツール、Confluence（コンフルエンス）は現在OpenSocialのツールをサポートしており、ユーザーはSalesforce.com（セールスフォース・ドットコム）の顧客情報、Gmail、Googleカレンダーなどを見るためのツールを入手することができます。

アナリティクスの刷新

銀行は現在、リスクを把握し規制圧力に対応するために分析に力を入れていますが、同時に分析を、成長を促進するための手段として捉え活用しています。その結果、自行の商品・サービスをより顧客の嗜好に合わせたものに変更する傾向が強くなっているものの、しかし、銀行の多くはまだ十分な分析能力を獲得できていないとは言えません。相応のツールがないか、あるいは分析に要する膨大な量のデータが十分に共有化、統合、保存されていないためです。

クラウドコンピューティングは、そのような状況を改善する可能性を秘めています。クラウドは膨大な量のデータを処理し、パターンの読み取りや異常の発見（過去のものだけでなく、将来の予測におけるものも含む）を可能にします。しかも、遥かに迅速、かつコスト効率良くこれらを実施できるのです。こうした価値を実現できるのは、銀行がクラウドを活用することで、必要に応じてAmazon Web ServicesやMicrosoft、Googleのコンピュータ処理能力を活用し、あるいはそれらのプラットフォーム上で分析アプリケーションを構築したベンダーの力を利用することができるためです。

例えばVisaは現在、Hadoop（クラウドベースのフリーソフトウェア）を使って730億件の取引を分析し、不正利用のモデルを構築する実験を行っています。内部で処理していたものをHadoopに切り替えることで、Visaは、本格的に使用可能なモデルを構築するまでの時間を1カ月から約13分に短縮したとされています。

クラウド導入に向けて行動を起こす

アクセンチュアは、銀行にとって重要なことは、今後10年でクラウドコンピューティングが基本的な技術になるかということではなく、どのようにクラウドの可能性や機能を活かすかということであると考えています。成功のチャンスを得るためには、銀行経営陣は以下のガイドラインを考慮してみたいかがでしょうか。

- 聞きにくいことでもきちんと質問し、クラウドによるコスト削減についてデータに基づく分析を要求する。
- 自行のアプリケーション・ポートフォリオ全体の状態や範囲を把握し、どのアプリケーションをいつクラウドに移行するか、優先順位リストを作成する。
- クラウドコンピューティングのための明確なガバナンス体制を確立する。

- サービス・プロバイダーのためのSLA（サービスレベル同意書）を作成し、締結する。
- クラウドの取り組みを順調に進めるために、実施にあたって必要な構想、プランニング、フォローアップを行う。
- 目的、成果物、期待する利益が十分に理解され、プロジェクトが事業ニーズに合致していることを確認する。
- スキル開発プログラムや、クラウドプロジェクトに携わったスタッフの経験を共有するためのプログラムに対して、資金面、技術人材提供の面で必要なサポートをする。
- クラウドプロバイダーを選定する際には、プロバイダーの財務的安定性、機能・サービス水準を向上させる能力、異なる技術プラットフォームとクラウドサービス間でデータを統合させる能力を慎重に検討する。

目的よりもプロセスが大切

最も基本的なところでは、クラウドコンピューティングによって銀行のITインフラコストは大幅に削減されます。しかし、より大局的な視点で見ると、銀行はクラウドを通じて、顧客の獲得・保持、そしてサービスを提供する方法を劇的に改善し、自行のマーケットを拡大する無数の機会を得ることができます。とは言え、一連のリスクやそれらをうまく回避する方法を理解していない状態で盲目的に導入すべきではありません。

具体的には、銀行は重要事項を見極め、それに沿って取り組みを進めていく必要があります。その重要事項とは、どのような点で削減が可能になるのか、投資収益をどのように計測するか、内部チームとベンダーに何を期待するか、安全性を保証し、長期的な成功を確実にするためにどのような具体策が必要か、などです。銀行業界は他の業界と比較してクラウドへの移行が遅れていると思われませんが、クラウドを取り入れ有効に活用していく銀行は、低コスト、競争優位をもたらす柔軟性を実現するなど、種々の永続的な利益を得られるようになります。さらには革新的な新商品・サービスおよびそれらを提供する新たなチャネルを開発する能力を得ることができ、各領域でハイパフォーマンスを実現できるのです。以前はつかみどころのない概念だったクラウドコンピューティングは、今後3年以内に現実的なビジネスの手段となっているでしょう。その効用を最大限に活かしたものがハイパフォーマンスを実現できるのです。

The Point「ポイント」
第10巻、第4号
www.accenture.com/fs/jp

The Pointは、アクセンチュアのグローバル・金融サービス本部とソート・リーダーシップ・チームの分析、リサーチ、知見をベースにした、月刊定期刊行物です。

本書の記事に関する詳細な情報や、アクセンチュアの金融サービスについて、より詳しくお知りになりたい方は、下記のホームページをご覧ください。

www.accenture.com/fs/jp

ファーガス・リード
編集ディレクター
金融サービス・マーケティング・
コミュニケーションズ
email: fergus.reid@accenture.com

Copyright © 2010 Accenture
All rights reserved.

Accenture, its logo, and
High Performance Delivered
are trademarks of Accenture.



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用